

四日市みなとまちづくりプラン〔基本構想〕

令和 3 年11月

四日市みなとまちづくり協議会

はじめに

四日市港は1899年の開港以来、産業構造の変化や企業活動のグローバル化等に対応しながら中部圏を代表する国際拠点港湾として発展を続け、背後圏に立地する様々な産業を支える港として大きな役割を果たしています。

特に近年は、霞ヶ浦地区において輸送船舶の大型化や取扱貨物の多様化、コンテナ化への対応を進めていることに加え、周辺道路の整備も進んでいることから、取り扱う貨物量は順調に推移しており、同地区が物流の中心となりつつあります。

一方、四日市港発祥の地である四日市地区は、国指定重要文化財である「潮吹き防波堤」や国内唯一となる現役の鉄道可動橋である「末広橋梁」、レトロな雰囲気を残す千歳運河など歴史的資源があり、中心市街地から比較的近くに位置していることから、従来の物流機能に加え、市民・県民が憩い、賑わう交流拠点としての活用が求められています。

そうしたなか、四日市商工会議所並びに四日市港利用促進協議会が呼びかけ人となり、令和2年6月に官民一体となって「四日市みなとまちづくり協議会」を設立し、四日市地区の活性化に向けた将来像を描く「みなとまちづくりプラン（基本構想）」の策定に着手いたしました。

当プランでは、四日市地区の将来像として「モノ・ヒトがともに集う 出会い・憩い・賑わいのみなとまち ～新たなよっかいち庭浦～」を掲げ、千歳運河の賑わい創出プロジェクトや第1埠頭周辺整備プロジェクトをはじめとする6つのプロジェクトと2つの継続的な取り組みをとりまとめています。

今後、このプランを実現していくためには、県民市民、企業、行政等の多様な主体が連携・協働しながら、段階的、継続的な取り組みを進めていく必要があります。当協議会といたしましてもプラン推進に向けた更なる検討を行うとともに、様々な活動を通じて機運醸成を図りながらプランの実現を目指してまいります。

令和3年11月

四日市みなとまちづくり協議会
会長 種橋 潤治

目次

0. はじめに	0
1. 四日市地区の現況	1
2. みなとまちづくりの将来像と戦略の考え方	2
3. みなとまちづくりの8つの視点	3
4. みなとまちづくりの将来像	4
5. 将来像の実現に向けた5つの戦略	5
6. みなとまちづくりプラン	7
7. 今後の取組み方針及び実現に向けた課題	10
四日市みなとまちづくり協議会 構成員名簿	11
四日市みなとまちづくりプラン検討委員会 構成員名簿	11

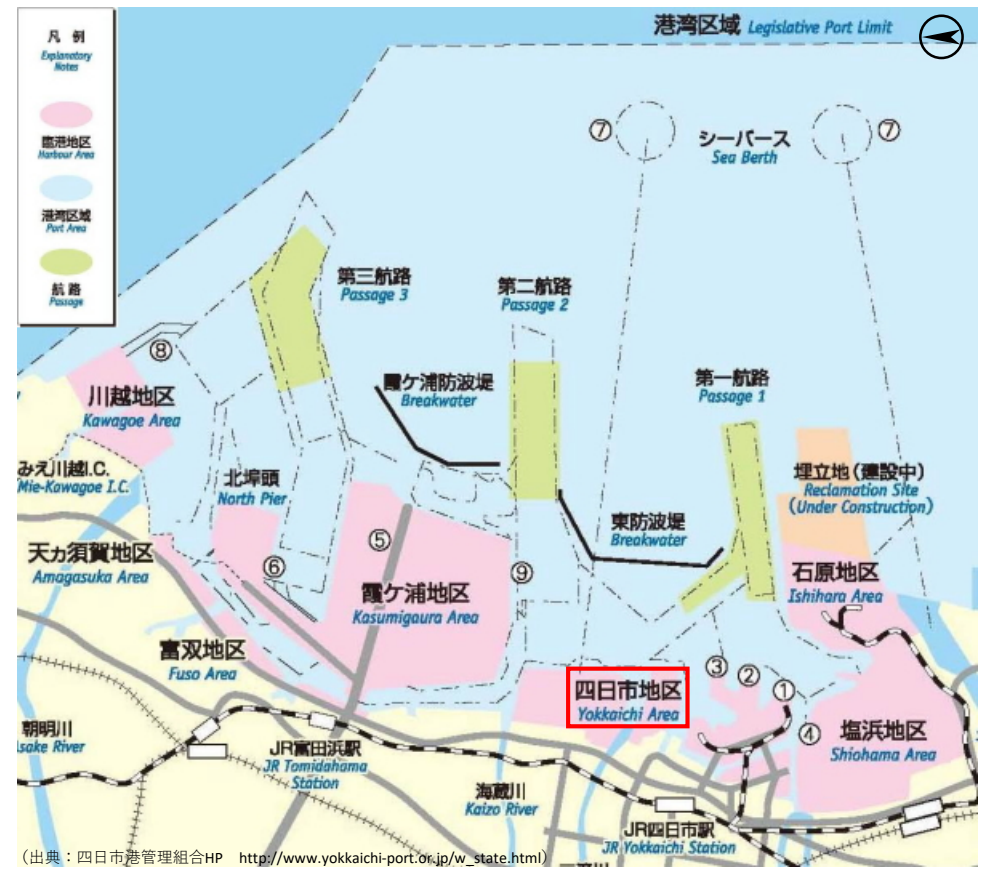


1. 四日市地区の現況

四日市地区は、四日市港の旧港を含むエリア(下図参照)で、四日市港の歴史を感じられる風景を残しながら、現在も港湾として機能している地区である。

四日市港は、江戸時代終わり頃から明治の初めにかけて伊勢湾最大の商業港として栄え、明治32年に国際貿易港としてスタートした。この頃から稲葉三右衛門により、港（当時の表記は「湊」）の整備・修築が行われ、近代港湾の基礎が出来上がっていった。当時の潮吹き防波堤は一度破損・改修されたが、現在国の重要文化財に指定されている（港湾施設としては初）。

開港当初は食料品や肥料の輸入が中心だったが、その後は綿花の輸入による繊維原料の輸入港、戦後は羊毛の輸入が大幅に伸びる一方、石油化学コンビナードの立地に伴って原油がこれを追い抜き工業港へと発展した。（現在の四日市地区における主な取扱貨物は下記参照。）近年はクルーズ船の寄港地として、霞ヶ浦地区と合わせて観光にも取り組んでいる。



- 四日市地区における主な取り扱い貨物
- ①第1埠頭：主に化学薬品、合成樹脂などを取り扱っている。
 - ②第2埠頭：主に穀物、国内向けの自動車などを取り扱っている。穀物専用のサイロがあり、中部地区の穀物供給基地としての役割を果たしている。
 - ③第3埠頭：主に外航船による穀物、鉱石などを取り扱っている。

四日市地区／霞ヶ浦地区のクルーズ客船入港実績（国内外）

2020年：（四）3回	
（※クルーズ中止による寄港キャンセル…5回）	
2019年：（四）4回、（霞）5回	
2018年：13回	2014年：6回
2017年：9回	2013年：3回
2016年：4回	2012年：3回
2015年：4回	2011年：2回



2. みなとまちづくりの将来像と戦略の考え方

【上位・関連計画】

港湾の中長期政策「PORT2030」：
・列島のクルーズアイランド化
・ブランド価値を生む空間形成

伊勢湾の港湾ビジョン：

国際大交流時代を拓く、観光・交流を促進する人流拠点の形成
①地域固有の観光資源を活かしたクルーズ振興の促進
②スーパー・メガリージョンを見据えた魅力ある賑わい空間の形成

四日市市総合計画：

「産業と市民生活を支える港づくり」
目指す姿：臨海部に文化的資源や景観等を活用した港町ならではの魅力的な都市空間が形成され、四日市港が、人が集い、行き交う、世界をつなぐ交流拠点として機能している。

四日市港長期構想：「都市・住民とともにあるみなと」

①人々が憩い、楽しむことができる四日市港
②都市と共に活性化し、住民を元気にしてくれる四日市港
③住民の暮らしを守ってくれる頼もしい四日市港

四日市港港湾計画：

港湾計画方針:みなとの文化や景観を活かし、親水性のある、人々が集い、憩える港湾空間の創出を図る。

四日市市まち・ひと・しごと創生総合戦略：

・まちの良さを「来て・見て・感じて」もらうことで四日市ファンを増やす
・誘客につなげる四日市「ならでは」の多様な地域資源の活用
四日市港への来港者数(KPI)：152,562人(H30)→157,300人(R6末)

みなとまちづくりを考える上での8つの視点

視点1

歴史・文化価値の継承と魅力の向上

視点2

人とみなとの交流・つながりの創出・強化

視点3

健康娯楽・うるおい空間の創造

視点4

快適な回遊性空間の形成

視点5

共創・協働による継続的なまちづくり

視点6

安全・安心の確保

視点7

持続可能な開発目標SDGsの達成への取組

視点8

Society5.0時代に向けた取組

地区の魅力

・産業発展を支えた四日市港の発祥の地である。
・末広橋梁、潮吹き防波堤や、セメント貨車が行き来する四日市港線(通称)などの歴史文化価値のある施設が存在している。
・古き良き景観の港である。
・映画やドラマの撮影場所としても人気の場所。

・物流の眺めは四日市ならではの魅力。
・美しい工場夜景が見られる。
・中小型クルーズ船が寄港する。

・山と海のコントラストの景観がよい。
・穏やかな水辺空間(運河)がある。

地区の課題

・中心市街地からのアクセスが不便である。
・公共交通(バス)の運行本数が少ない。
・文化施設や観光施設などが点在しており、スムーズに見学できない。
・みなとまちあるきルートの整備が十分ではない箇所がある。
・公園や緑地があまり利用されていない。

・市民の意識が港に向けられていない。
・フィルムコミッション等の産業がみなとPRに十分に活かされていない。

・クルーズ船寄港時の観光客受け入れ施設がない。
・港湾施設が老朽化している。
・物流と人流が交錯している。

まちづくりの動向

・持続可能なまちづくりに向けた取組の推進にあたって、SDGsの理念に沿って進めることにより、地域課題解決につながる事が期待できる。
・AI等の技術革新・データ利活用によるスマート社会の到来により、様々なニーズにきめ細かな対応が可能となる、新しいまちづくりが求められている。

【パブリックコメント及びサウンディングでの主要意見】

外からの観光客に限らず、ファミリー層や高齢者など、**多くの市民が気軽に訪れて時間を過ごせる環境づくり**が必要である。

計画を進める際には、実験的にイベント等を実施するなど、**需要を探りながら段階整備**を行うべきである。(例：キッチンカーやマルシェイベント、観光列車イベント、水陸両用バスの運行など)

産業観光の場だけではなく、**「健康」「憩い」の場やアクティビティの場としての活用**も考えるべきである。(例：温泉、音楽フェス/ライブ、水面を活かしたスポーツ、ドライブインシアター、グランピング、ナイトタイムエコノミーなど)

旧港に対する市民の意識が低いので、みなとまちづくりプランを通じて、イメージを改善すべきである。**外部への情報発信**は重要である。

港を自由に移動できる仕組みづくりを構築すべきである。

大規模な商業施設の誘致は現状では想像しにくい。

民間のみで賑わい創出を行うのは困難なため**行政側の支援**も必要である。補助金制度、官民連携手法の適用、規制緩和など行政側での対応が必要である。

クラウドファンディングやネーミングライツなどによる資金源の確保も必要である。

四日市地区みなとまちの将来像

モノ・ヒトがともに集う
出会い・憩い・賑わいのみなとまち
～新たな“よっかいち庭浦”の実現～

将来像を実現するための5つの戦略

歴史・文化

古き良き港景観・文化を学び、楽しめる”みなとまち”をつくる

交流・賑わい

ヒトを引き寄せ、交流と賑わいがあふれる”みなとまち”をつくる

ゲートウェイ

旅のゲートウェイとして世界とつながる”みなとまち”をつくる

まちとの連携

まちとつながり、訪れやすい”みなとまち”をつくる

安全・安心

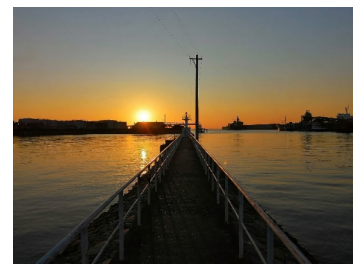
物流と人流が安心して共存できる”みなとまち”をつくる

3. みなとまちづくりの8つの視点

①歴史・文化価値の継承と魅力の向上

地域固有のさまざまな資源＝礎材（自然、歴史・文化、産業、人など）をさらに生かしながら、活力と魅力ある地域社会を形成する。

潮吹き防波堤、末広橋梁など歴史遺産・産業遺産の活用、美しさでインスタ映えも期待できる工場夜景など。



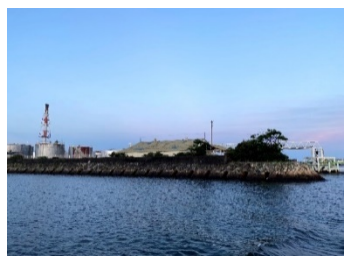
インスタ映えする港湾風景



末広橋梁を通る貨物列車



工場夜景・夜景



潮吹き防波堤を望む

②人とみなとの交流・つながりの創出・強化

市民、クルーズ船観光客、ビジネスマンなど、様々な人が交流する場や仕組みをつくる。外から来る人(観光客やビジネスマンなど)と中の人(市民や地元企業など)をマッチングさせる機能を港につくる。

観光客受け入れ施設やオープンスペースの整備、コワーキングスペースや宿泊施設の整備など。



ウォーターフロントの芝生広場※1



クルーズ船「飛鳥II」



海を臨むコワーキングスペース※2



ウォーターフロントのオープンスペース※3

③健康娯楽・うるおい空間の創造

人々が健康で安らぎを得られるような親水空間を整備し、ウォーターフロントでみなとまちらしいアクティビティを行う場をつくる。

水面を活用したイベントやスポーツ、水辺の公園など。



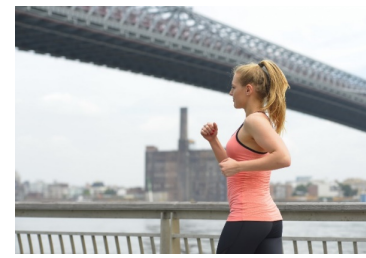
SUPによる水面アクティビティ



サイクリングで巡る



釣りを楽しむ



ランニング・ウォーキングで健康づくり

④快適な回遊性空間の形成

港湾地区と駅周辺や街の中心を一体的なエリアとするために、快適に回遊できる歩行空間をつくる。

プロムナード、サイクリングロード、案内板の整備など。



日陰のある休憩所の整備



プロムナードの空間再生



徒歩で快適に回遊できる港湾地区



現状の千歳運河プロムナード※4

⑤共創・協働による継続的なまちづくり

クリエイティブ産業の活性化（フィルムコミッションとの連携）、市民参加型イベント・企画による意識の醸成、主体組織の構築、民間活力の導入、官民協働などにより、様々な人が関わり、共に港をつくりあげる仕組みやプロセスを用いて、持続可能なまちづくりを行う。



海沿いの商業施設



四日市港まつりパンフレット



撮影風景（四日市フィルムコミッション）※5

⑥安全・安心の確保

物流と人流がお互いに安全を確保できるよう配慮する。

著しい気候変動や地震等に対する防災／減災の対策を行う。

ハード面だけでなくソフト面での取組も合わせて行い、誰もが安全・安心のみなとまちをつくる。



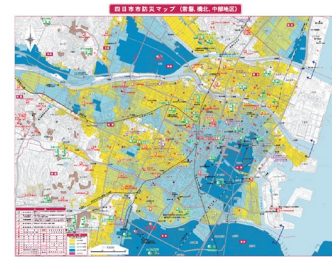
稲葉水門※6



防潮堤の景観改善



港湾地区での防災訓練※7



四日市市防災マップ※8

⑦持続可能な開発目標SDGsの達成への取組

持続可能な開発目標（SDGs）とは、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標。17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の「誰一人取り残さない（leave no one behind）」ことを誓っている。みなとまちづくりでは、以下の5つの目標に重点をおく。



⑧Society 5.0時代に向けた取組

次世代に向けた新技術の活用により、スマートな移動を可能にする。デジタル技術の活用、MaaSの導入などにより、より豊かな生活・まちをつくる。



自動運転モビリティ※9



空飛ぶクルマ※11



一人用モビリティ※10



低炭素型モビリティ（低速電動バス）※12

※1・・・ジム・ヘンダーソン / CC BY-SA (<https://creativecommons.org/licenses/by-sa/4.0/>)
 ※2・・・ONOMICHI SHARE HPより
 ※3・・・ONOMICHI U2 HPより
 ※4・・・四日市港管理組合HPより

※5・・・四日市フィルムコミッションHPより
 ※6・・・<https://minkara.carview.co.jp/userid/495398/spot/525120/>より
 ※7・・・四日市市消防本部公式Twitterより
 ※8・・・四日市市防災情報HPより

※9・・・TOYOTA HP (<https://global.toyota.jp/newsroom/corporate/20508200.html>)より
 ※10・・・YAMAHA HP (<https://global.yamaha-motor.com/jp/news/2019/0703/tritown.html>)より
 ※11・・・三重県HP (<https://www.pref.mie.lg.jp/common/05/ci400014667.htm>)より
 ※12・・・<https://rev-m.com/mobility/ecom20180727/>より

4. みなとまちづくりの将来像

モノ・ヒトがともに集う 出会い・憩い・賑わいのみなとまち ～新たな“よっかいち庭浦”^{※1}の実現～

四日市地区は、地域の発展を牽引してきたみなと

今もなお古き良き歴史的な景観を残すみなとは、

人に寄り添い、訪れる人をもてなす「みなとまち新たな“よっかいち庭浦”^{※1}」として
多くのモノ・ヒトが集まり、出会い、交流し、そして賑わいをもたらす。

■都市とみなとをつなぐ

四日市地区は、海と陸の結節点として、かつ都市のゲートの一つとして、モノ・ヒトが外部との交流を図る港湾空間である。地区内に広がる資源と背後の中心市街地との連携・ネットワークの強化を図ることで、交流人口の増加、観光振興に資する“みなとまち”となる。

■交流と賑わいの創出

平日は市民の憩いの場として、地域住民の健康生活を支えながら、住民同士の交流の場を創出する。休日は周辺地域から人が集まる賑わいの場として、広大な水面を活かした非日常を味わう空間をつくる。多様な価値観が重なり合い、活発な交流が生まれる、多世代に愛される“みなとまち”となる。

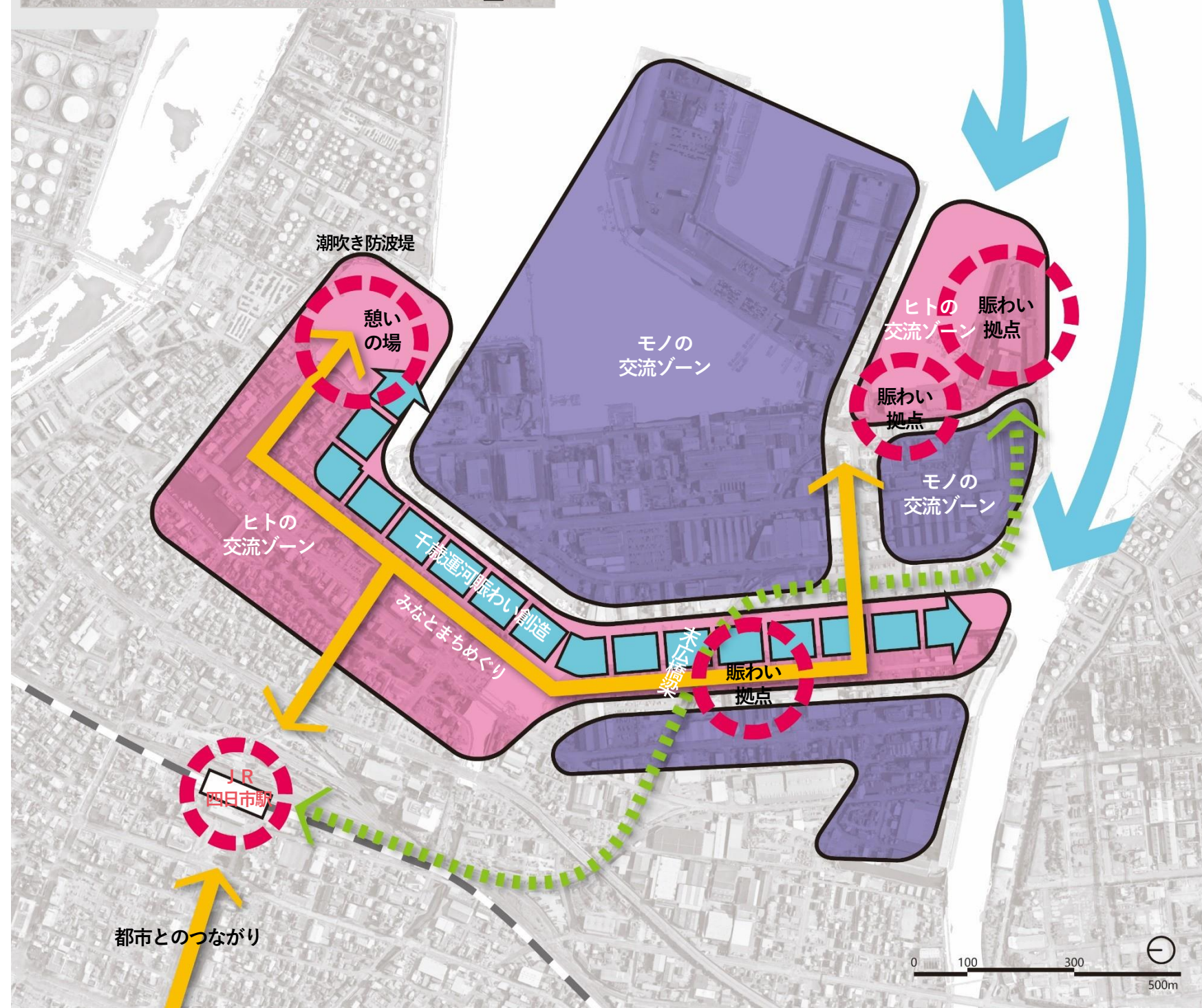
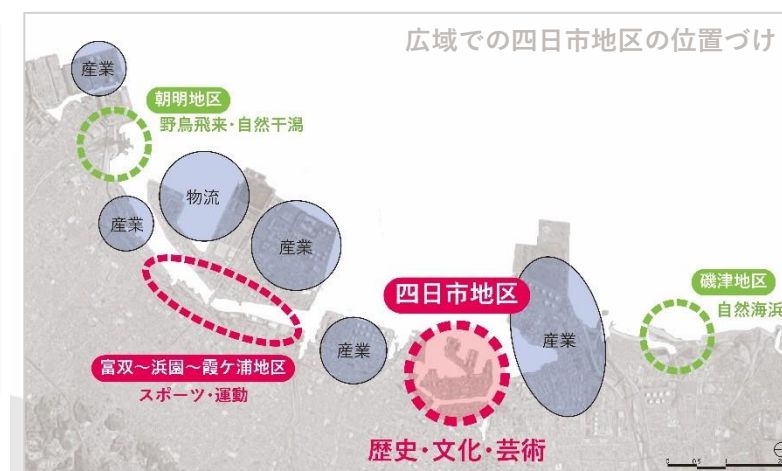
■古き良きものと新しいものの融合

四日市地区に点在する歴史・文化遺産、景観などの“古き良きもの”を保存・活用するとともに、千歳運河沿いや第1埠頭を中心に新たな文化・芸術・活動の拠点となる“新しいもの”を整備する。これらが共存し、互いに融合することで、ここを訪れる多くの人が楽しめる“みなとまち”となる。

■物流と人流の共存

四日市地区の発展を支えてきた物流機能を残した“モノの交流ゾーン”と、人が集まる場、賑わいをもたらす場としての“ヒトの交流ゾーン”を整備する。ヒトが行き交い、モノが集まり、様々な活動が活発に行われる“みなとまち”となる。

※1：よっかいち庭浦(ばうら)・・・1473年（文明5年）の外宮庁宣案に記載された港名。当時、既に「四」のつく日に定期市（四日市場）が開設されており、その外港として、物流・人流の要衝として活況を呈していた。



歴史・文化

古き良き港景観・文化を学び、
楽しめる”みなとまち”をつくる

幕末から明治初期にかけて伊勢湾内の最大の商業港として賑わっていた四日市地区には、歴史ある港の風景と昔ながらの風情が味わえる貴重な運河が今もなお存在する。また、国指定の重要文化財である「末広橋梁」や「潮吹き防波堤」など歴史的価値の高い文化財がある。

四日市の歴史を語る上で重要な地区かつ、観光資源として活用が見込める地区であるため、そのポテンシャルを最大限に発揮することができるよう、施設周辺環境整備と施設をより知ってもらうための情報発信が必要である。



交流・賑わい

ヒトを引き寄せ、交流と賑わいが
あふれる”みなとまち”をつくる

海や港は、その街の市民の精神や暮らしを豊かにし、街に賑わいや憩いをもたらすことができる貴重な資源である。その価値を十分に引き出すことで、地域で暮らす人々の満足度や地域そのものの魅力を向上させることができ、地域全体の活性化、来訪者の増加につながる。

家族連れや若者、老若男女すべての市民が集い、交流できる“みなとまち”として、スポーツや文化活動等による豊かな余暇や日常のひとときを過ごすことができる“みなとまち”としての空間の整備が必要であり、中心市街地から近い水辺空間を利用できる整備が必要である。



ゲートウェイ

旅のゲートウェイとして世界とつながる”みなとまち”をつくる

かつて四日市は東海道の宿場町として栄え、明治初期にかけては港に多くの貨物や旅客が往来するようになり、以降、石油化学コンビナートの立地に伴い四日市は工業都市として港とともに発展してきた。

近年はコンビナート夜景クルーズの人気や国内外のクルーズ船が寄港するなど観光面でも港が利用され、また中部国際空港の定期就航が増加傾向にあることから、出発地、中継地、目的地として、国内主要観光地や世界につながる旅のゲートウェイとしての役割も期待されている。

みなとまちとしての四日市が海の玄関口・観光ハブとしての機能を十分に発揮できるよう、港を訪れる人々が快適に利用できる空間づくりに取り組む必要がある。



(出典: <https://minamisadochikushokokai.com/event/9664/>)



(出典: <https://setouchi-artfest.jp/artworks-artists/artworks/naoshima/184.html>)



(出典: https://www.tohokukanko.jp/sozaishu/detail_1006043.html)



(出典: <https://www.g-mark.org/award/describe/49500>)

まちとの連携

まちとつながり、訪れやすい”みなとまち”をつくる

四日市地区は、最寄り駅であるJR四日市駅から約2 kmの位置にあり、四日市の中心市街地からは非常に近い位置にある。しかし、JR四日市駅と港の間には線路や国道23号が横断しておりアクセス環境は非常に悪く、公共交通機関の利便性も低いことから、現状では“近くて遠い”と言わざるを得ない状況にある。

今後、中心市街地と連携してみなとまちづくりを進め、みなとまち四日市としてのポテンシャルを最大限に発揮するためには、中心市街地からのアクセス環境を改善する必要がある。



四日市

安全・安心

物流と人流が安心して共存できる”みなとまち”をつくる

四日市地区は、バルクを中心とした貨物を取扱う物流機能を今後も維持していく。その一方で、産業遺産や運河、港ならではの景観等を活用した賑わいや交流を創出する空間を整備して、多くの人を呼び込んでいく。

ここに訪れる人々の流れと、物流を分離し、互いが安全で安心して共存できる“みなとまち”とする。



四日市

6. みなとまちづくりプラン

プロジェクト1

千歳運河賑わい創造プロジェクト

千歳運河沿いを物流のための運河から、賑わいの空間としての運河に再生する。短中期には、イベントの実施によって賑わいを創り出す。運河沿いのプロムナードの整備を継続して進めていき、長期的には賑わい拠点の場を整備する。



対応する戦略：

歴史・文化 交流・賑わい ゲートウェイ まちとの連携 安全・安心

プロジェクト3

みなとまちめぐりルート整備プロジェクト

歩行者、自転車がみなとまちを楽しく、安全に回遊するルート（みなとまちめぐり）を整備する。ルート上に回遊を楽しむことができる拠点や休憩できるスペースを整備する。



対応する戦略：

歴史・文化 交流・賑わい ゲートウェイ まちとの連携 安全・安心

プロジェクト5

安全・安心プロジェクト

みなとを訪れる誰もが安心して安全とするために、既存道路や施設について対策・検討を行う。また、第1埠頭の用途転換に伴う避難計画の見直し検討を行う。

対応する戦略： 安全・安心

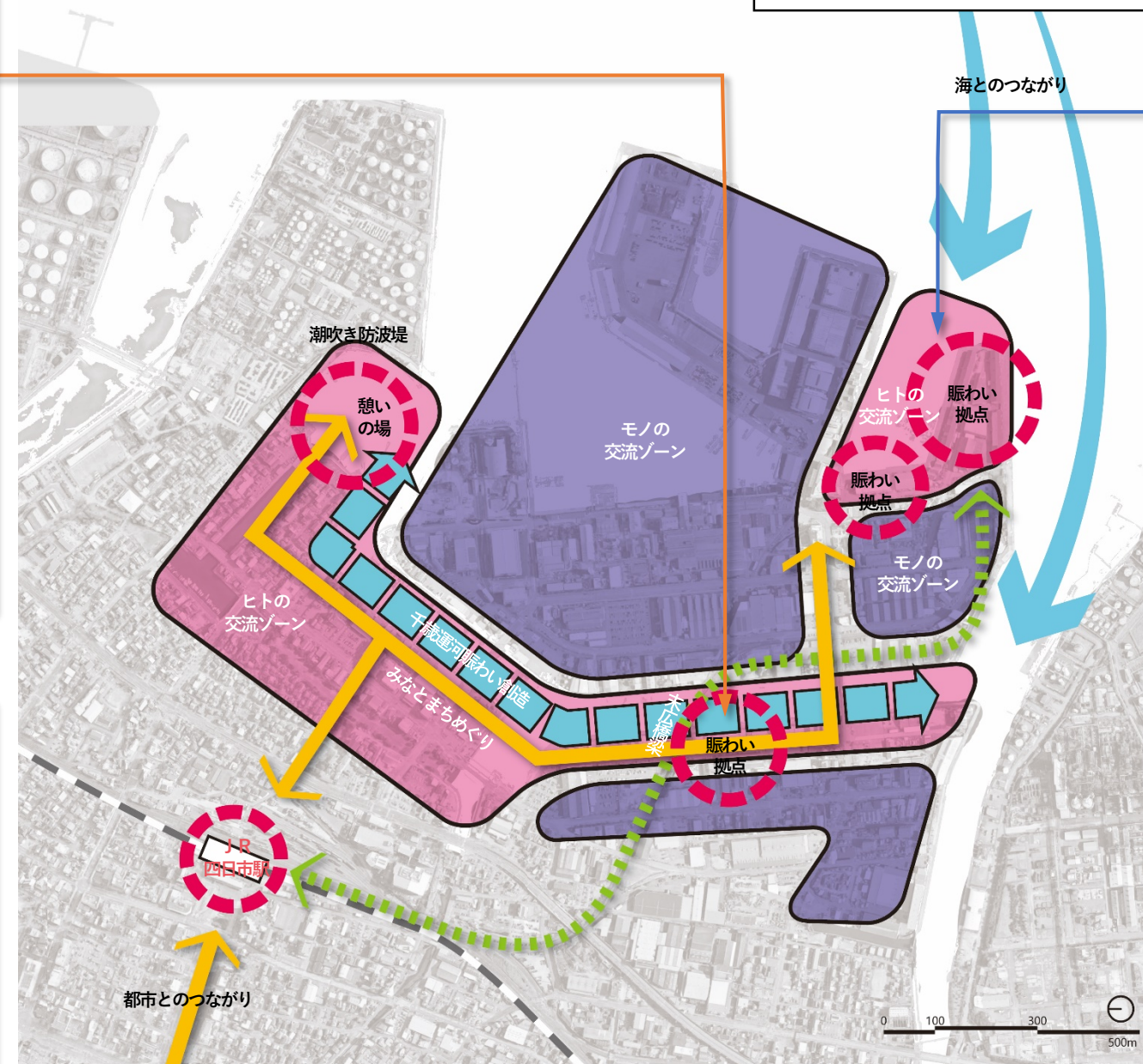
プロジェクト6

みなとアクセス向上プロジェクト

中心市街地やその他周辺地域からのアクセス性の向上を行い、誰もが訪れやすいみなとまちとする。

対応する戦略： まちとの連携

6つのプロジェクトと2つの継続的な取組



継続的な取組

みなとまちづくり推進体制構築と持続的なエリアマネジメントの推進

みなとまちづくりを計画的に実施していくための体制を構築し、持続的な運営を行うエリアマネジメントの推進を図る。

対応する戦略： 交流・賑わい

継続的な取組

みなとまちづくりイベント・企画、情報発信

クルーズ船寄港時のイベント、四日市港線（通称）を活かしたイベントや、みなとまつりなどを定期的の実施し、市民や観光客など多くの人がみなとまちを訪れるきっかけを創るとともに、みなとまちづくりを進める機運の醸成を図る。みなとまち全体で中心市街地との連携を図るイベントや、四日市らしさをアピールできるようなイベントに取り組む。

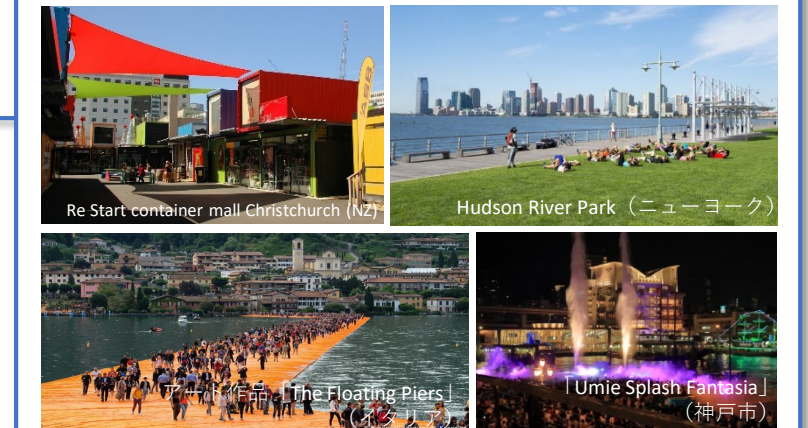
また、様々な媒体を活用した情報発信を行い、みなとまちの魅力を多くの人に広めていく。

対応する戦略： 歴史・文化 交流・賑わい ゲートウェイ

プロジェクト2

第1埠頭及び周辺地区再生プロジェクト

老朽化した第1埠頭エリアを、海辺の賑わい拠点として再生する。港湾関連施設の既存ストックを有効活用しながら、みなとまちの「賑わい、交流、観光」機能を持った土地利用を図る。



対応する戦略：

歴史・文化 交流・賑わい ゲートウェイ 安全・安心

プロジェクト4

公園再生プロジェクト

公園の既存ストックを活かして、みなとまちめぐりの憩いの場として、そして市民の交流の場としての緑地空間として再生する。



対応する戦略：

交流・賑わい まちとの連携 安全・安心

プロジェクト1. 千歳運河賑わい創造プロジェクト

■将来的に目指す姿（イメージ）



豊洲運河（東京都江東区）

運河沿いのプロムナード



T.Y.HARBOR（東京都品川区）

小規模商業施設等の整備



現状をもとに作成



VERMICULAR VILLAGE（愛知県名古屋市）

運河を眺めるテラス席



小樽運河（北海道小樽市）

運河沿いのライトアップ



LUMBER YARD（静岡県富士市）

交流拠点



越谷レイクタウン（埼玉県越谷市）

水面利用(イルミネーション)

プロジェクト2. 第1埠頭及び周辺地区再生プロジェクト

■将来的に目指す姿（イメージ）



etto（広島県廿日市市）

商業施設



OTSURY（滋賀県大津市）

交流拠点



ホテルオリオンモトブリゾート（沖縄県国頭郡）

海への眺望確保



LeaLeaグランピング・イン・ハワイ（ハワイ・オアフ島）

芝生



SWEETS by NAKED 多治見（岐阜県多治見市）

イベント開催



四日市花火大会（三重県四日市市）

花火大会



現状をもとに作成

7. 今後の取組み方針及び実現に向けた課題

■ 今後の取組み方針

今後の取組みとしては、3～5年単位で実現すべき目標を掲げ、イベント等の取組みを実施しながら、ハード整備やソフト対策の実現可能性を把握する。そしてそれらを踏まえ、6つのプロジェクト（P7参照）の実現に向けた施策の深度化または見直しを図り、段階的にみなとまちづくりを推進する。また、みなとまちづくりには、県民・市民の参加が必要不可欠である。みなとまちづくりの第一歩としてみなとを知ってもらい、そして親しみを持ってもらえるような活動も継続的に進めていく。

■ 実現に向けた課題

本みなとまちづくりプランに取りまとめた基本構想を具現化させていくためには、官民一体となって下記課題に取り組むことが必要である。

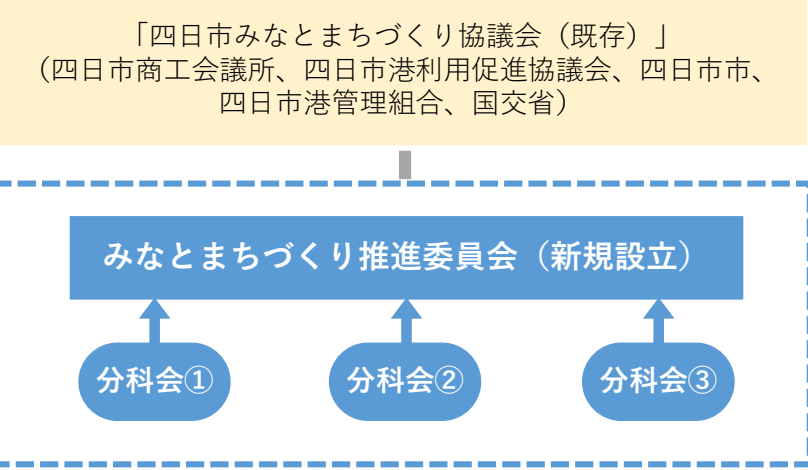
①みなとまちづくりを継続的に検討・実施する体制構築と長期的な運営	長期間にわたる段階的な事業展開を支援、推進する体制を構築する必要がある。
②多くの関係者の協力と連携の強化	港湾地区には、地権者、物流業者、製造業者、関係行政機関など、多くの関係者が存在するため、みなとまちづくりに対する理解と協力を得る必要がある。特に、港湾に関わる官民の関係者、まちづくりに関わる官民の関係者が将来の目標を互いに共有したうえで、みなとまちづくりの実現に向けた強い連携が必要である。
③財源の確保	みなとまちづくりに必要となるソフト事業、ハード事業には多くの資金が必要となる。
④施設整備に関する調査・検討	四日市地区の港湾施設はかなり老朽化しており、既存ストックの有効活用や、新設に関する技術的手法、それらに係る整備コスト等、様々な調査・検討が必要である。
⑤民間進出を促すための支援スキームの構築等	みなとまちづくりを進める過程において、みなとまちづくりに参画する事業者を支援するスキームの構築等が必要である。
⑥取組みを継続する担い手の発掘とイベント企画の継続的な実施	みなとまちづくりを推進させるためには、地域の中で積極的に関わり、活動してくれる担い手が必要である。また、将来的な整備メニューの妥当性を検証するための継続的なイベントの企画・実施を担う組織や財源が必要である。
⑦プランの柔軟な見直し	港湾を取り巻く環境や社会経済情勢の変化があっても、物流機能と人流機能が共存でき、四日市港が競争力を持った国内有数の港としてあり続けるために、本プランも必要な見直しを柔軟にしていけることが必要である。

■ 今後の実施体制

「みなとまちづくり推進委員会」として、より実働に向けた組織を新たに構成し、様々な意見を取り入れながら、みなとまちづくりに取り組む。推進委員会が取り組む内容は、ハード整備、ソフト対応どちらも対象とする。

推進委員会では分科会を設置し、プロジェクトごとの取組内容についてより詳細に検討できる体制とする。分科会メンバーは、プロジェクトに関係するメンバーで構成する。

みなとまちづくり推進体制



■ 今後の取組み内容

みなとまちづくりの第一歩としての今後3年程度の取組み内容は以下の通り。

①継続的な取組みを推進する体制づくり	・みなとまちづくりを継続して推進し、進捗管理、プラン見直しの検討等、より実働に向けた組織として「みなとまちづくり推進委員会」を新たに設置する。 ・具体的な取組みをより詳細に検討、実行するための「分科会」を設置する。
②みなとまちづくりに向けた機運醸成	・みなとまちづくりに向けた活動状況の情報発信（プラン公表、HP開設、SNS利用等） ・シンポジウム等の情報発信イベントの企画・実施 ・各種賑わいづくりイベントの企画・実施（四日市港線の利用イベント等）
③千歳運河プロジェクトの推進のための検討	・活性化に係る戦略や拠点となる空間の活用方法の検討 ・社会実験の企画・実施（市民の反応をリサーチする水面活用イベントや夜景クルーズ発着場所移転の為の詳細検討等） ・社会実験、各種イベント等の評価をもとに、当プロジェクトを推進するため具体的な実施内容を検討する。
④みなとまちめぐりルート整備プロジェクト・公園再生プロジェクトの詳細検討	・活性化に係る戦略や公園空間の活用方法の検討 ・案内板の更新、新設位置の整理、見直し ・みなとまちめぐりイベントの検討・実施 ・社会実験、各種イベント等の評価をもとに、当プロジェクトを推進するため具体的な実施内容を検討する。
⑤第1埠頭及び周辺地区再生プロジェクトの推進のための検討	・港湾関係者との協議の継続と、プロジェクトに対する関係企業の理解と協力を得るための対話の継続。

【参考資料】

■ 四日市みなとまちづくり協議会

日 付	内 容
令和2年6月5日	第1回 四日市みなとまちづくり協議会 設立総会 ・規約の制定、役員の選任について ・令和2年度 事業計画（案）、収支予算（案）について ・委員会の設置について
令和2年11月24日	第2回 四日市みなとまちづくり協議会 ・四日市みなとまちづくりプラン中間報告について ・サウンディング調査について 他
令和3年2月1日～ 2月28日	市民意見募集／意見数60件（14名）
令和3年2月1日～ 3月15日	民間企業サウンディング調査／参加企業・団体：計11社・1団体
令和3年4月23日	第3回 四日市みなとまちづくり協議会 ・四日市みなとまちづくりプランについて 他
令和3年6月 1日	第4回 四日市みなとまちづくり協議会 ・四日市みなとまちづくりプランについて
令和3年11月 1日	第5回 四日市みなとまちづくり協議会 ・四日市みなとまちづくりプランについて

■ 四日市みなとまちづくり協議会 委員名簿

役職	所 属	役職名	氏 名
会長	四日市商工会議所	会頭	種橋 潤治
副会長	四日市港利用促進協議会	理事	小林 長久
	四日市市	副市長	舘 英次
	四日市港管理組合	副管理者	嶋田 宜浩
	国土交通省 中部地方整備局 四日市港湾事務所	所長	日置 幸司
	四日市商工会議所	専務理事	須藤 康夫
監事	四日市市 政策推進部	部長	佐藤 恒樹
監事	四日市港管理組合 経営企画部	次長	伊藤 博仙

（令和3年11月現在・敬称略）

■ みなとまちづくりプラン検討委員会

日 付	内 容
令和2年 6月30日	第1回 みなとまちづくりプラン検討委員会 ・四日市みなとまちづくりプランの策定について ・四日市港の将来像実現に向けた現状と戦略について 他
令和2年 9月10日	第2回 みなとまちづくりプラン検討委員会 ・四日市港四日市地区 現場視察 ・四日市みなとまちづくりプランについて 他
令和2年11月2日	第3回 みなとまちづくりプラン検討委員会 ・四日市みなとまちづくりプランについて
令和3年 4月 9日	第4回 みなとまちづくりプラン検討委員会 ・四日市みなとまちづくりプランについて

■ みなとまちづくりプラン検討委員会 委員名簿

役職	所 属	職 名	氏 名
委員長	四日市大学 総合政策学部	教授	鶴田 利恵
委 員	岡山大学 学術研究院 社会文化科学学域	講師	福田 峻
	日本トランスシティ株式会社	秘書室長	田中 克典
	株式会社JTB四日市店	観光開発 プロデューサー	小島 博
	株式会社三十三総研	調査部長	別府 孝文
	四日市観光協会	会長	野村愛一郎
	四日市商工会議所 商工振興部	商工振興担当部長	秋田 和伸
	三重県 雇用経済部 雇用経済総務課	課長	柏屋 典生
	四日市市 政策推進部 政策推進課	課長	田中 啓晶
	国土交通省 中部地方整備局 四日市港湾事務所 企画調整課	課長	鬼頭 孝明
	四日市港管理組合 経営企画部 企画課	課長	早川 伸次

（令和3年4月現在・敬称略）

四日市みなとまちづくりプラン〔基本構想〕 令和3年11月発行

四日市みなとまちづくり協議会
（事務局：四日市商工会議所 商工振興部 商工振興課） TEL 059-352-8194・8195